

綾部市君尾山光明寺の総合調査

荒井陸人

歴史学科では、2018年度より地域貢献型特別研究（ACTR）として、綾部市君尾山光明寺の総合調査を実施している（代表 横内裕人）。以下、今年度の活動状況を簡単に報告する。

1. 現地調査の実施

2018年8月22～24日、現地調査を実施した。文書類（室町時代の勸進状と奉加帳・近世文書）、建造物（本堂・二王門）、木札（制札・巡礼札・棟札・旧扁額など）、石造物などの撮影・測量・記録を行った。ご住職の榎林誠雄師には、史資料の伝来や管理に関する基礎事項のご教示など、調査の便宜を図っていただいた。また、『京都新聞』2018年8月23日付・『あやべ市民新聞』2018年8月29日付の紹介記事、横内先生が地元ラジオからのインタビューに応じる模様が放送されたことで、調査の概要は広く周知された。

現地調査後、本学にて文書類（415点）の目録作成および翻刻など、記録の整理や詳細な調査を継続して行っている。なお、勸進状・奉加帳は京都府の文化財指定調査、二王門に安置される二王像は国の重要文化財指定調査の対象にそれぞれなっている（いずれも2019年指定見込）。2019年度からは、経典調査や近隣の寺院の建造物調査も合わせて実施する予定である。

2. 現地見学会への協力

2018年11月18日、奥上林地域振興協議会主催の「蘇った文化財に触れ合う会」への協力を行った。2016年より修理事業を行っていた二王門（鎌倉時代建立、京都府北部で唯一の国宝〈建造物〉）と鐘撞堂（再建）の完成報告会として催されたものである。本学からは横内・岸（教員）とともに学部生4名が参加し、8月調査の成果を反映した写真パネルを用いて、光明寺の歴史や建造物の文化財的意義などについて解説した。地元の方々を中心とした多くの来場者が解説をお聴きくださり、光明寺が歴史的にも地域住民の力によって維持・繁栄してきたことをご理解いただけたのではないかとと思われる。

なお、2019年3月3日に、継続的な調査から得られた知見をもとに成果報告会を現地にて実施する予定である。



写真1 現地見学会（二王門）